

第1回

三木市創生計画策定検証委員会

【目次】

- | | |
|---------------------|----------------------------|
| 1. 一目でわかる三木市1 | (3) 合計特殊出生率の推移.....6 |
| ～10のランキングから見て～ | (4) 未婚率の状況.....7 |
| 2. 人口の現状と将来予測.....2 | (5) 年代別人口動態.....8 |
| 3. 三木市の人口減少の特徴 | 4. 将来（25年後）の人口推計 |
| (1) 人口減少の概要.....3 | (1) 若年女性の人口減少率ランキング.....10 |
| (2) 転出入の状況.....4 | (2) 社会・自然増減の県内比較.....12 |

1. 一目でわかる三木市～10のランキングから見て～

医療・介護、出産・子育て、住環境においては兵庫県内において上位に位置しているものの、一人当たりの所得や市内総生産額などの経済面においては、県内中位に位置。

一方、人口減少率においては県内ワースト3位となっており最大の課題となっています。

(注) 各ランキングの母数は、有効回答のあったものによる

1

医療介護ランキング

・全国32位/767市区 ・県内1位/28市



日経グローバル「全都市住み良さランキング」 2014年 ※対象は市と東京23区

2

出産・子育てしやすい街ランキング

・関西7位/111市・県内2位/29市



週刊東洋経済「出産・子育てしやすいまちランキング」 2013年

3

持ち家率ランキング

・全国76位/764市 ・県内3位/29市



総務省「統計でみる市区町村のすがた」 2014年

4

観光入込客数ランキング

・県内6位/29市
(兵庫県は5位/47都道府県)



観光庁「全国観光入込客統計」 ・兵庫県「観光客動態調査」 2013年

5

住み良さランキング

・全国95位/791市区・関西19位/111市
・県内7位/29市



東洋経済「全都市住み良さランキング」 2014年 ※対象は市と東京23区

6

一人あたりの公園数ランキング

・全国126位/782市 ・県内7位/29市



総務省「統計でみる市区町村のすがた」 2014年

7

一人あたりの所得ランキング

・全国317位/789市 ・県内14位/29市

総務省「統計でみる市区町村のすがた」 2014年

8

一人あたりの市内総生産額ランキング

・県内14位/29市

(兵庫県は31位/47都道府県)

兵庫県「市町村民経済計算」 2011年

9

地価ランキング

・全国454位/790市 ・県内20位/29市



HP「土地代データ」 2014年

10

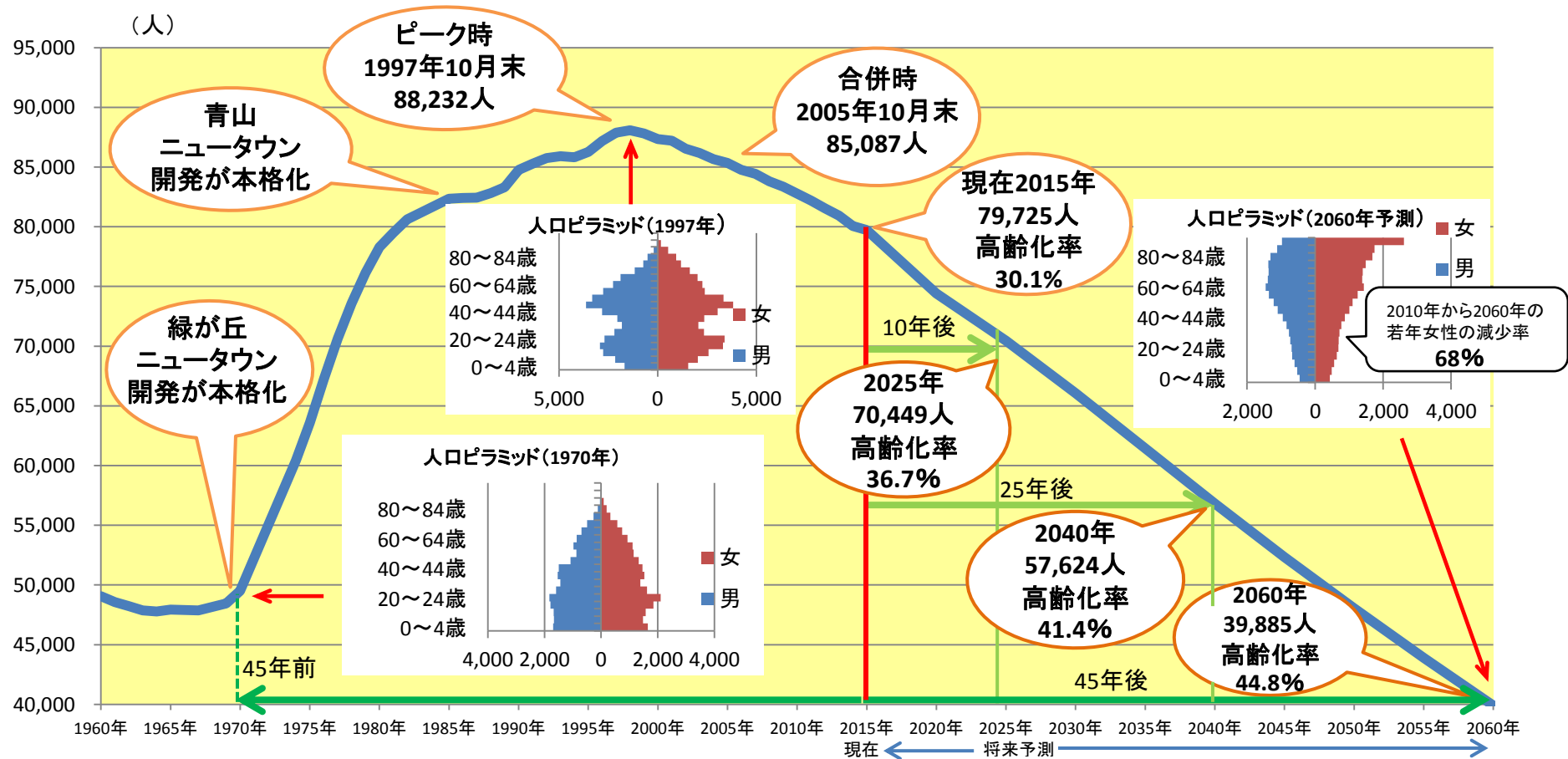
若年女性(20～39歳)人口減少率 ランキング(2010年～2040年)

・全国126位/917市区 ・県内3位/37市区

社人研推計 ※政令市の区を1でカウント

2. 人口の現状と将来予測

三木市の人口は、1970年（昭和45年）頃から緑が丘などのニュータウン開発によって急激に増加。しかしながら、若者の市外流出や出生数の低下などにより1997年（平成9年）10月末の人口88,232人をピークに減少の一途をたどっています。現状のまま推移した場合、45年後の2060年には、**高齢化率が約45%、人口約40,000人**と予測されます。



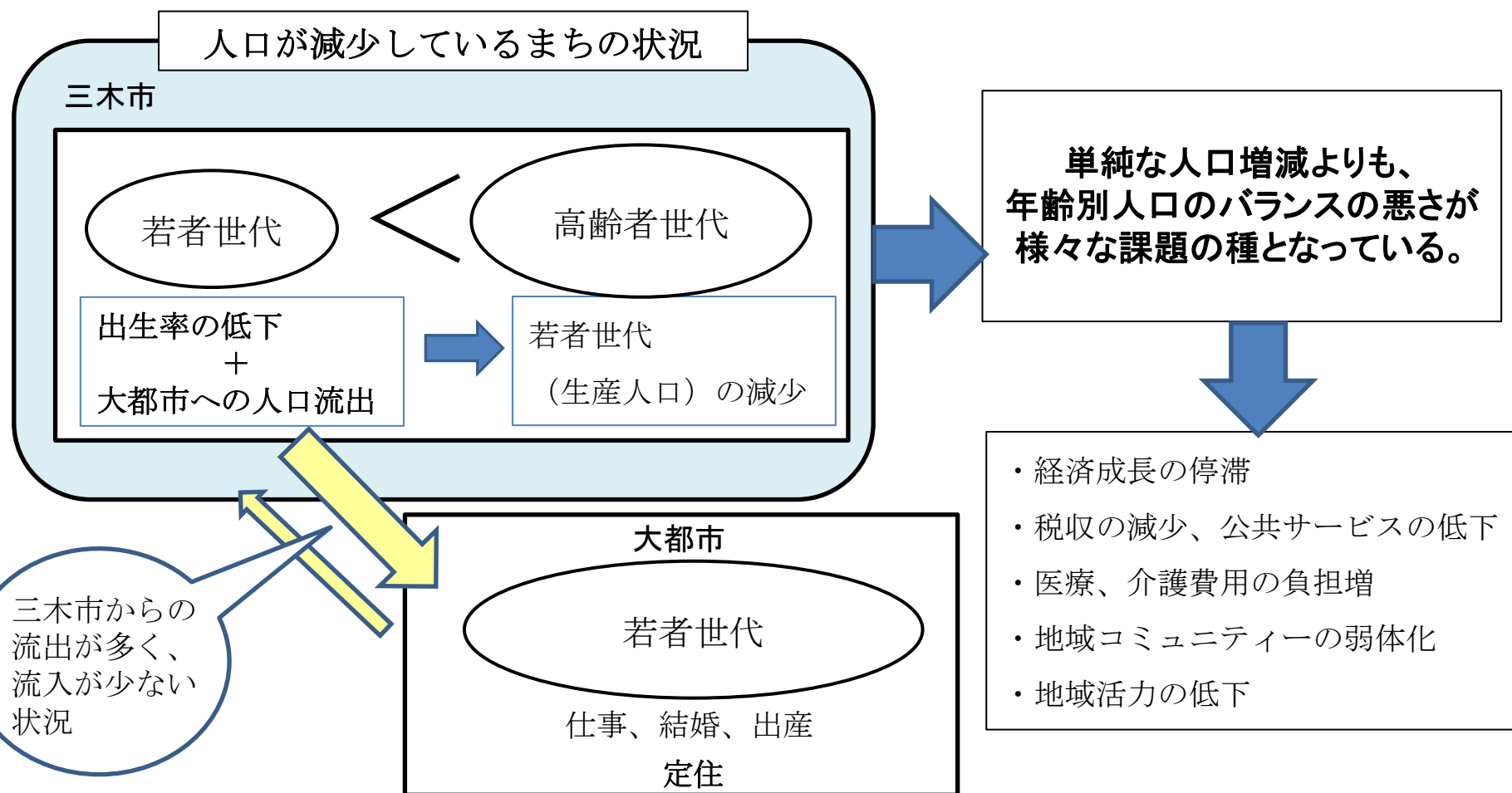
1960-2015年：住民基本台帳(各年3月末)
2015年以降：国立社会保障・人口問題研究所推計

3. 三木市の人口減少の特徴

(1) 人口減少の概要

三木市では、出生率の低下と合わせ、若者の大都市への流出などにより、特に若者世代の人口の減少が顕著になっています。

一方で、高齢化が進み、年齢別人口のバランスが悪くなってきているため、今後のまちの経営や市民生活に支障をきたすことが懸念されます。



① 転出入先

Map of Yamaguchi Prefecture showing population movement from Yamaguchi City to other cities and out of the prefecture in Heisei 24. The map uses blue arrows for movement within the prefecture and orange/red arrows for movement out of the prefecture. Numbers on the arrows indicate the number of people.

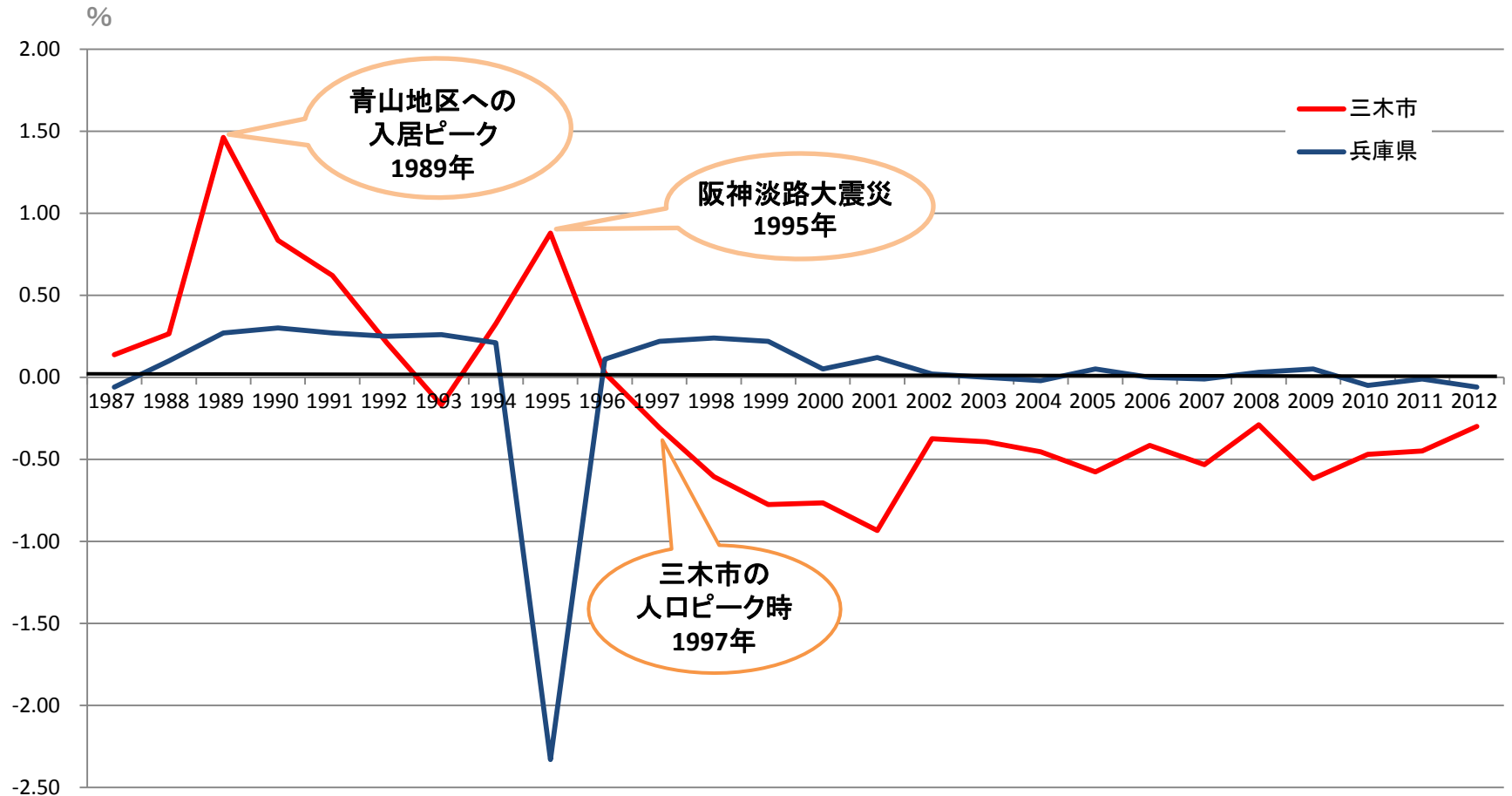
Destination	Number of People	Direction Color
Yamaguchi City (Center)	-	-
Yamaguchi City to Yamaguchi City (Self-loop)	127	Red
Yamaguchi City to Yamaguchi City (Self-loop)	41	Orange
Yamaguchi City to Yamaguchi City (Self-loop)	5	Orange
Yamaguchi City to Yamaguchi City (Self-loop)	14	Orange
Yamaguchi City to Yamaguchi City (Self-loop)	14	Orange
Yamaguchi City to Yamaguchi City (Self-loop)	21	Orange
Yamaguchi City to Yamaguchi City (Self-loop)	63	Orange
Yamaguchi City to Yamaguchi City (Self-loop)	23	Orange
Yamaguchi City to Yamaguchi City (Self-loop)	9	Orange
Yamaguchi City to Yamaguchi City (Self-loop)	12	Orange
Yamaguchi City to Yamaguchi City (Self-loop)	11	Blue
Yamaguchi City to Yamaguchi City (Self-loop)	22	Blue
Yamaguchi City to Yamaguchi City (Self-loop)	10	Blue
Yamaguchi City to Yamaguchi City (Self-loop)	5	Blue

平成24年

資料:平成25年版三木市統計書 地方別人口移動状況
※数値は平成24年の転出入の差

(2)-② 社会増減率の推移 (三木市)

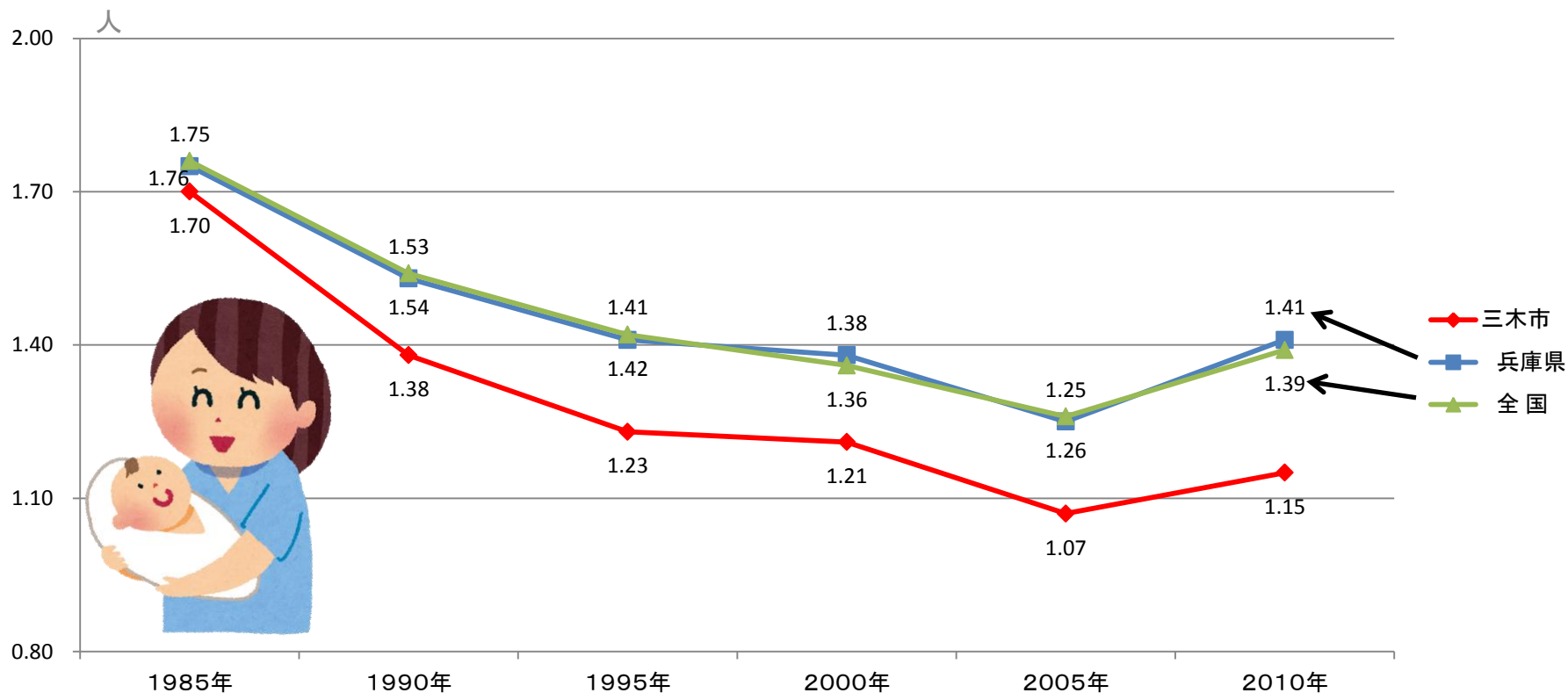
三木市では、1995年の阪神淡路大震災での一時的な転入超過以降、常に転出超過が続いています。一方、県全体では、阪神淡路大震災時に急激な転出超過があったものの、2002年までは転入が超過しており、その後の社会増減は安定しています。



(3) 合計特殊出生率の推移

三木市の合計特殊出生率は、全国や兵庫県の出生率と同程度でしたが、その後1985年頃に差が広がり始め、2005年には県内最下位となりました。

2010年には、出生率は回復していますが、全国や県との差は広がり、県内最下位の状況になっています。



兵庫県内での順位（29市中）

	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年
三木市	23	25	27	28	29	29

※順位は市町村合併を考慮したもの

(4) 未婚率の状況

三木市の未婚率は、男女ともに25歳～39歳においては全国や兵庫県の平均より高く、特に30代前半の女性の未婚率は全国平均と比べて6.3ポイントも上回っています。また、男性においては30代前半で半数以上が未婚という状況になっています。

女性の5歳ごとの未婚率の状況
(年齢に占める割合)

(単位: %)

	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳
全国	98.9	87.8	58.9	33.9	22.7	17.1	12.4
兵庫県	98.9	89.2	60.7	34.6	22.5	17.0	12.5
三木市	99.4	91.0	64.8	40.2	25.7	17.0	11.0

男性の5歳ごとの未婚率の状況
(年齢に占める割合)

(単位: %)

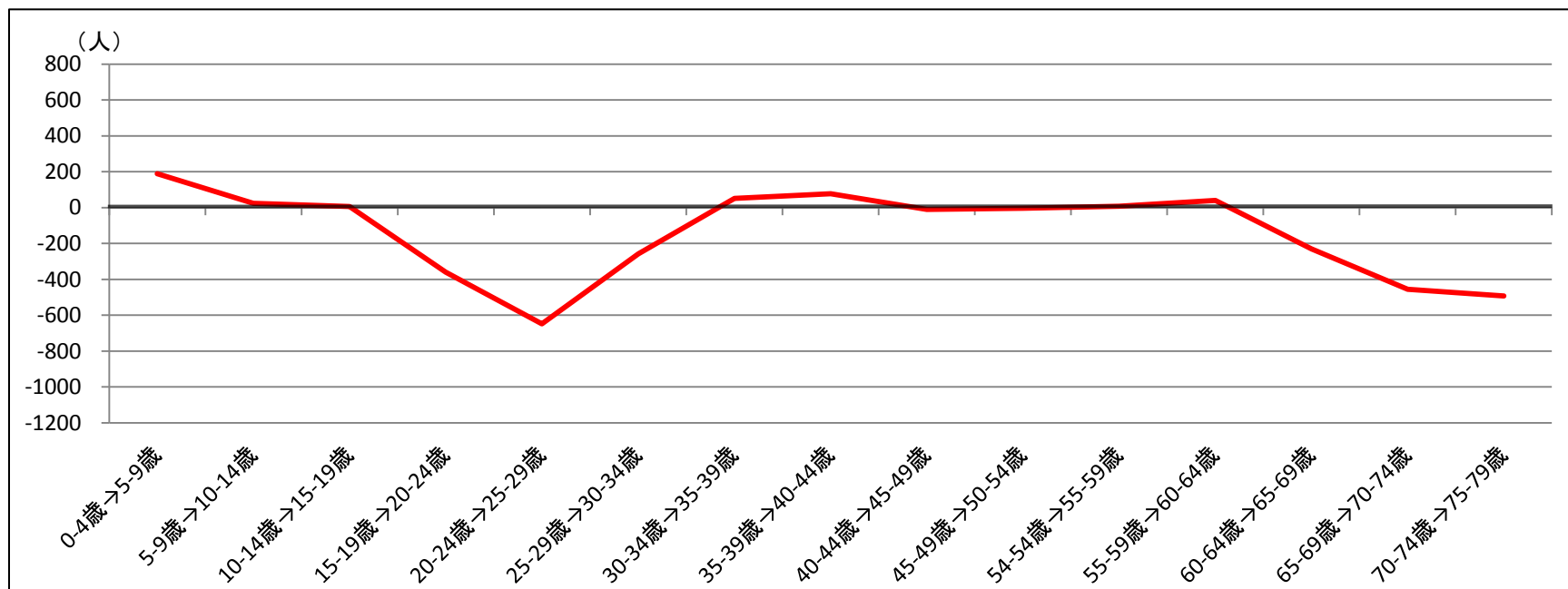
	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳
全国	99.0	91.4	69.2	46.0	34.8	28.0	22.0
兵庫県	98.8	91.8	68.9	43.8	31.7	24.8	19.1
三木市	99.4	94.2	74.6	51.5	36.5	27.8	19.3

(5) 年代別人口動態

①三木市の動態 (2009年から2014年の年代別人口動態比較)

20歳代の人口減少が顕著であるとともに、60歳以上でも減少があり、他の世代での増加がないため、全体として人口が減少しています。

○三木市

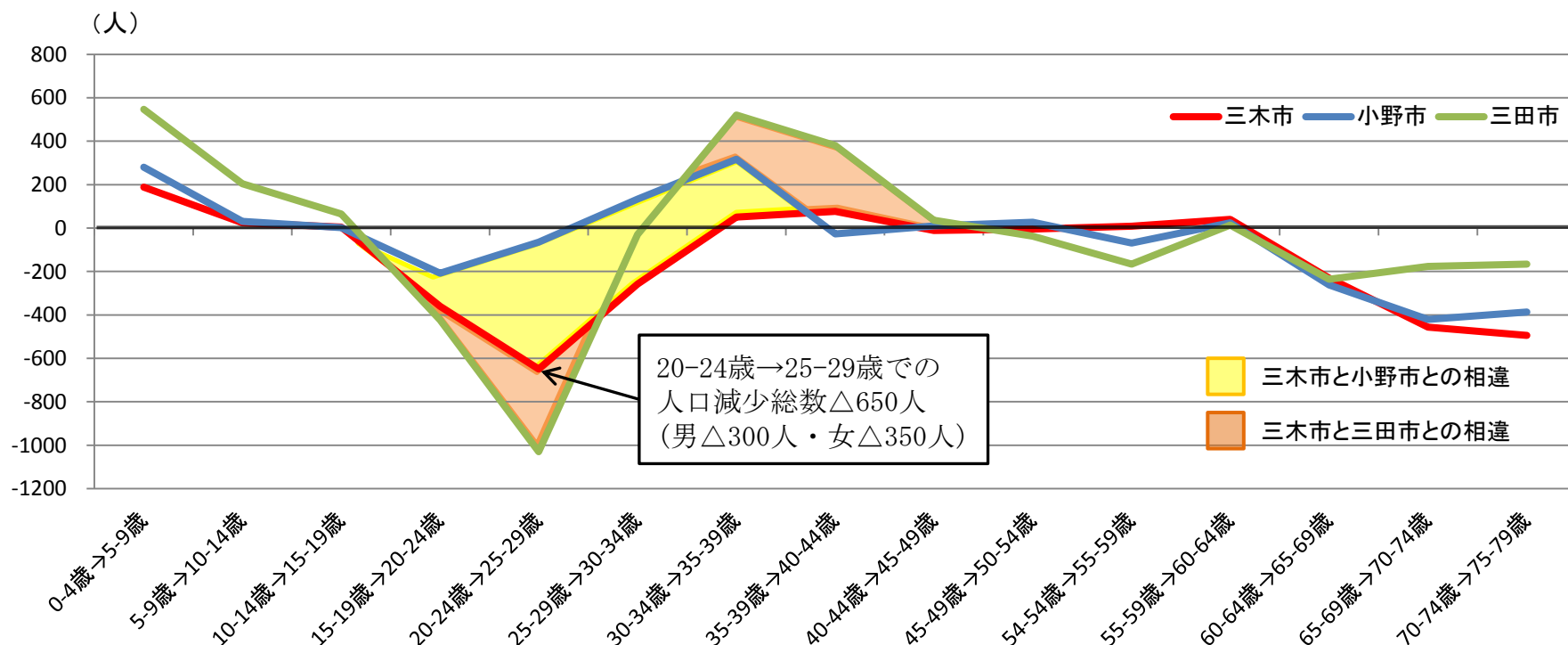


②隣接市との比較（2009年から2014年の年代別人口動態比較）

三木市においては、20歳代前半の世代が5年後において減少し転出超過となっている。加えて、子どもを産む若い世代が少なくなることと、子育て世代が転入していないことが人口減少の大きな要因と考えられます。

小野市は、全世代において転出入のバランスがとれており、特に三木市に比べ20代の減少が少ないため、子どもの数が減らずに人口を維持しています。

また、三田市は三木市と比べ、子どもが産まれてから三田市に転入している子育て世代が多いことから、子どもや子育て世代の増加が多い状況にあります。



資料:2009年と2014年の住民基本台帳に基づき、5年間の人口増減を試算。
相対評価をするにあたり、各市の人口数が異なるため、相対的に人口を三木市の8万人と仮定して試算した。

4. 将来（25年後）の人口推計

（１）若年女性の人口減少率ランキング（2010→2040年）（県内市区）

推計データによると、三木市の若年女性（20～39歳）の減少率が県内ワースト3位となっています。また、全国でもワースト126位と、悪い数値となっており30年後には若年女性数が現在の約半数になることが予測されています。

推計ランキング（若年女性減少率）

県内	全国	市区	若年女性人口変化率	
			社人研推計	日本創生会議推計
1	117	篠山市	-49.0%	-58.7%
2	124	朝来市	-48.6%	-63.5%
3	126	三木市	-48.6%	-56.2%
4	129	淡路市	-48.5%	-58.7%
5	151	相生市	-47.9%	-55.4%
6	161	神戸市須磨区	-47.5%	-51.4%
7	164	尼崎市	-47.4%	-48.3%
8	170	加西市	-47.1%	-54.7%
9	191	洲本市	-46.3%	-58.5%
10	275	神戸市長田区	-43.4%	-42.8%
11	317	養父市	-42.3%	-58.3%
12	337	宍粟市	-41.9%	-55.0%
13	343	南あわじ市	-41.7%	-53.6%
14	353	三田市	-41.4%	-45.4%
15	403	赤穂市	-40.2%	-44.4%
16	453	神戸市垂水区	-39.3%	-40.3%
17	472	高砂市	-38.6%	-43.2%
18	494	丹波市	-38.2%	-50.4%
19	521	神戸市兵庫区	-37.7%	-30.2%
20	527	明石市	-37.6%	-38.6%

県内	全国	市区	若年女性人口変化率	
			社人研推計	日本創生会議推計
21	552	神戸市中央区	-36.9%	-20.9%
22	573	たつの市	-36.1%	-39.9%
23	574	加古川市	-36.1%	-38.3%
24	576	西脇市	-36.1%	-44.8%
25	579	神戸市西区	-36.0%	-38.8%
26	592	神戸市北区	-35.6%	-37.9%
27	599	川西市	-35.4%	-37.3%
28	636	豊岡市	-34.5%	-48.8%
29	697	姫路市	-32.6%	-33.6%
30	705	神戸市東灘区	-32.3%	-27.6%
31	743	神戸市灘区	-30.6%	-20.9%
32	762	宝塚市	-29.6%	-27.4%
33	767	小野市	-29.5%	-32.0%
34	802	加東市	-28.1%	-26.4%
35	813	伊丹市	-27.4%	-25.0%
36	821	西宮市	-26.8%	-21.5%
37	834	芦屋市	-26.0%	-20.3%

増田レポートと山下レポートとの相違（参考）

増田レポートにおいては、経済水準の向上が雇用改善（賃金上昇）につながり、そのことで子育て費用を稼ぐことが可能となり出生率の上昇を促すという理論が展開されている。

この増田レポートに対して、経済水準の向上が、必ずしも出生率の上昇につながらないという山下レポートが発表されている。このレポートにおいては、人口が増えなくても豊かなくらしは実現可能という提案がされている。

増田レポート

※増田レポート・・・日本創成会議座長 増田寛也氏による

○経済循環により、出生率はUPし、人口が増加する。



山下レポート

経済水準の向上は、共働きや女性の社会進出により未婚、晩婚化などで、かえって出生率を低下させる。

雇用改善・所得アップは、出生率アップにつながらない。
所得が比較的低い沖縄県や発展途上国の方が出生率が高い

○経済循環だけでは、出生率のUPにつながらない。

人口は増やさなくても豊かなくらしはできる。

- 子どもを産めばよいというものではない
- 子育ては楽しむことが大切
- 経済力以前にゆとりのある時間の創出が必要

※山下レポート・・・地域社会学者山下祐介氏による

(2) 社会・自然増減の県内比較

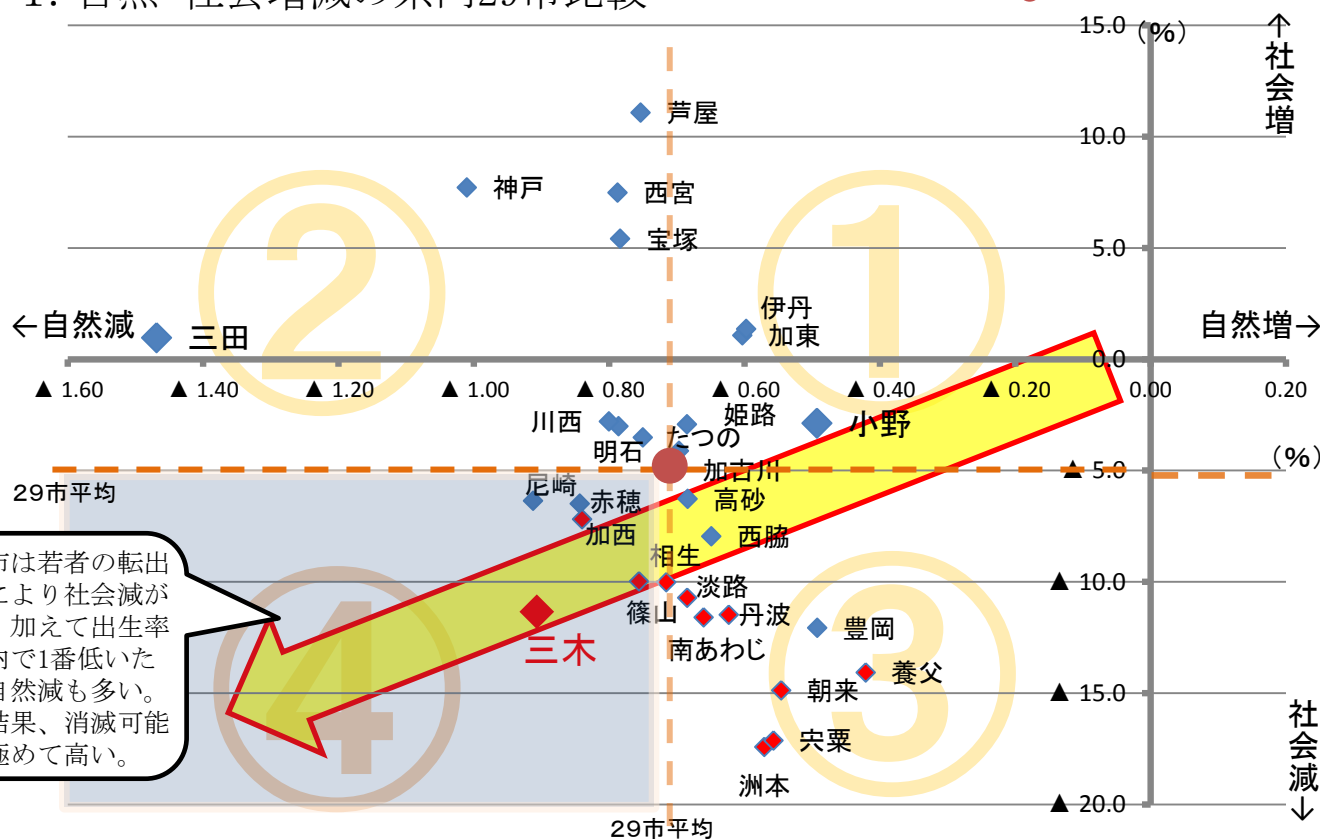
～2005年から2010年の5年間の状況から推測される2040年時の人口分析～

図の左下方向に位置するほど（④の方向になるほど）人口減少の傾向が強くなります。
三木市は④にある他市と比較しても社会減、自然減ともに一番多く、消滅可能性が最も高い状況にあります。
また、消滅可能性都市は平均年齢と相関関係にあり、平均年齢が29市平均を超える13市のうち、11市がこれに該当しています。

1. 自然・社会増減の県内29市比較

◆ 消滅可能性都市

● 29市平均



2. 市民平均年齢

1	◆ 養父市	50.67
2	◆ 淡路市	50.39
3	◆ 朝来市	49.06
4	◆ 南あわじ市	48.93
5	◆ 相生市	48.68
6	◆ 洲本市	48.48
7	◆ 篠山市	48.18
8	◆ 丹波市	47.95
9	◆ 豊岡市	47.79
10	◆ 宍粟市	47.72
11	◆ 三木市	46.92
12	◆ 西脇市	46.89
13	◆ 加西市	46.69
14	◆ 赤穂市	46.06
15	◆ 川西市	45.80
16	◆ 芦屋市	45.40
17	◆ 尼崎市	45.37
18	◆ たつの市	45.28
19	◆ 神戸市	45.03
20	◆ 宝塚市	44.49
21	◆ 小野市	44.15
22	◆ 明石市	44.03
23	◆ 加東市	43.99
24	◆ 高砂市	43.86
25	◆ 姫路市	43.62
26	◆ 加古川市	43.42
27	◆ 伊丹市	42.67
28	◆ 西宮市	42.53
29	◆ 三田市	42.34

29市平均
46.08歳

(2010年
国勢調査)

・横軸の自然増減は、「2030年までに合計特殊出生率が2.1に回復した場合における2040年の推計人口」に比べ「社人研推計人口」がどの程度増減したかを表す。
・縦軸の社会増減は上記の出生率回復を踏まえる中で、かつ「人口移動について転入と転出が均衡した場合における2040年の推計人口」に比べ「上記の出生率が回復した場合における2040年の推計人口」がどの程度増減したかを表す。